



ポジティブ・アクション

HIV/AIDSと闘うコミュニティとの連携

GLOBAL COMMUNITY PARTNERSHIPS



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer



「ポジティブ・アクションのサポートのおかげで組織力を高め、当時は誰の支援も受けていなかったこれらのプログラムを発展させることができました。」

TREAT ASIA, AMFAR
ケビン・フロスト

AIDSに対するコミュニティの対応策を支援

人類とAIDSとの闘いが始まってから25年以上が経ちました。その間2000万人以上もの人々がAIDSで死亡し、現在推定3300万人がHIVに感染しています。

私たちは、HIVの感染予防の知識を取得し、抗レトロウイルス薬（ARV）も患者さんの延命につながっています。しかし依然としてHIV/AIDSを完治させる薬もなければワクチンもありません。また、貧困や偏見にさらされて、ケアやサポートをほとんど受けられない何百万人もの人々に効果的な医療を届けるために克服しなければならない課題がたくさんあります。

HIVが性交渉、注射針の使いまわし、および母子感染によって感染するというのを知っているだけでは、感染から人々を守るために必要な行動の変化を促すには不十分です。世界中でARVが使用できるようになってきていますが、これだけでは治療を必要とするすべての人々が治療を受けたいと名乗り出たり、血液検査の費用をまかなえたり、十分な栄養が摂れたり、危険な薬剤耐性を回避するためにこれらの薬剤を毎日正確な時間に一生服用しなければならなかったり、ということを理解している訳ではありません。

HIVとAIDSは、医学的なチャレンジであると共に社会的な問題でもあります。初期に導入されたいくつかのHIV対策プログラムは、HIVの影響を受けているコミュニティによって推進されていました。HIVコミュニティをベースとした団体の

リーダーシップと参画は、HIVの予防・ケア・治療の成功に依然として極めて重要な役割を果たしています。これらの団体は、HIVの影響を受けている社会的弱者の参画を促し、不可欠なサービスの提供やHIV/AIDSの多くの面で必然的に伴う偏見や差別に対する対策に取り組んでいます。

1992年に設立された「ポジティブ・アクション」のプログラムは、グラクソ・スミスクライン（GSK）がこれらのコミュニティが行っている重要な取り組みをサポートすることに焦点を当てています。GSKは、20カ国以上で継続可能なHIV対策プロジェクトを草の根レベルで提供する数々の団体と連携しています（活動のいくつかは後述。詳細はwww.positiveaction.comをご覧ください）。これらのプロジェクトは、世界各国のコミュニティにおける多くのニーズとチャレンジを反映しています。「ポジティブ・アクション」は、コミュニティが行ない、またはコミュニティと協働して行われている斬新なもしくは他にも価値をもたらす活動、既存のサービスや他のプログラムの恩恵を受けていない人々を対象とする活動を優先的に支援しています。

『国際エイズ会議（IAC）のグローバル・ビレッジ（HIV/AIDSの影響を受けているコミュニティや政策立案者、研究者、他のステークホルダーが知識・スキルを共有し相互学習と交流を行なう場）に「ポジティブ・アクション」がパートナーとして参加してくれました。これは特に社会から取り残されている人々や援助の手を差し伸べるのが難しい人々といったHIVコミュニティをしっかりと認識し参画を促すという私たちの優先事項を共有していることをあらわしています。』

IAC 2008 メキシコ・シティー ホアン・ハコボ・ヘルナンデス

HIVに対する偏見と差別に立ち向かう

HIV/AIDSの影響を受けている人々は、この疾患が流行し始めた時から偏見と差別にさらされてきました。この疾患と死に対する人々の恐怖は、HIVが性行為で感染することや最も感染リスクの高い人々に向けられる態度により一層高まりました。

この偏見は、予防・ケア・治療であれ、重要なサービスを受けるための現実的な障害となっています。自己嫌悪や劣等感、支援を自ら申し出ることを妨げ、またHIVに対する差別は、一般的に地域コミュニティ、公共サービス、医療・法制度においても見られます。

メキシコのVida Digna（命の尊厳）プロジェクトは、最も保守的な地域で偏見と差別にさらされているセックスワーカー、薬物使用者、MSM（男性と性行為をもつ男性）、HIVと共に生きる人々などの小規模なコミュニティ組織と連携した活動を行なっています。Colectivo Solは、International HIV/AIDS Allianceと連携して各HIVコミュニティの組織力を強化して来ました。各コミュニティは、研修、アドボカシー、医療従事者や警察、政治家と共に運動し、HIVに伴う偏見や差別を無くす活動を行なっています。その結果、警察からのハラスメントが減少し、医療へのアクセスと役所との対話が増えました。2008年にColectivo Solは、このアプローチがもたらすベネフィットをより広く共有することを目的に全国規模のネットワークであるVida Digna Stigma and Discrimination Networkを立ち上げました。

HIV対策に法律を不適切に適用することは、公衆衛生における深刻な結果をもたらします。「ポジティブ・アクション」は、Global Network of People Living with HIV (GNP+) とTerrence Higgins TrustにHIV感染の犯罪化を調査するための資金を提供しています。これにより調査結果を元にGNP+が人権という枠組みの中で必要な改善を提唱していくことが可能となります。




HIVの感染予防

HIVの感染予防への第一歩は、必要としている人々に情報を提供することです。その次は、その情報を行動に移す妨げとなっている環境に立ち向かうことをサポートすることで、最後は、カウンセリングやコンドームを提供するなど人々の行動の変化を促すことです。

「ポジティブ・アクション」は、HIVの知識が極めて低いインドの農村地域における女性を対象とした大規模な教育・啓発活動プログラムを支援しています。Freedom from Hungerが実施しているReach Indiaプロジェクトは、HIV/AIDSやマラリア、重要な社会的・経済的課題について話し合い、学ぶ教育ツールを開発しました。この開発ツールは女性自助グループの膨大なネットワークで活用することが可能です。新たに12の独立した教育センターを設立したことで、このプロジェクトは、既存のコミュニティをベースとした団体を通じて識字率の低い貧しい女性の社会的・健康ニーズに応えるための継続可能なアプローチを提供しています。25,000以上の自助グループの50万人の女性に教育を行なうことで、最初の段階で250万人もの家族に普及させることができます。同じネットワークを活用して蚊帳やコンドームを提供するなど低価格でできる対策も講じていく予定です。

一人がHIVの感染を予防できれば、後々治療が必要となるHIV/AIDS患者が一人減るということです。中国、インド、ロシア、ウクライナ、ナイジェリア、ケニア、ルワンダ、ボツワナ、ジャマイカ、バリーズなど10カ国では、Prevention and Treatment Advocacy（予防と治療啓発）プロジェクトによるHIV関連市民社会団体の組織力の向上を通じて、公的に提供されているHIV感染予防と治療プログラムとのバランスが適切かどうかの確認が行なわれています。同プロジェクトをリードしているICASO（International Council of AIDS Service Organizations）の協力で、全国規模を持つ各団体は、それらの国のHIV対策プログラムを調査し、提供されているプログラムと予防・治療ニーズの実態とのギャップを縮めることに取り組んでいます。





「HIVの影響を受けている人々
自身が、ただケアを受動的に
受けるのではなく、自ら貢献し、
参画しようとしています。
これは画期的なことです。」

AMREF ダラウス・ブケニア

治療を成功させる

ケニアでは、Zingatia Maisha（ポジティブに生きる）プロジェクトの支援を通じて、医療機関とAIDSの影響を受けているコミュニティが連携してより良いサービスと服薬遵守の実現に向けた新しいモデル作りに取り組んでいます。

コミュニティをベースとしたサポートグループは、医師の照会ツールの作成やHIVの疾患啓発・治療教育およびより良いケアの実施のためにHIV治療センターを支援しています。プロジェクトのパートナーであるAMREF、NEPHAK、EGPAFと連携して40の拠点でコミュニティ・クリニックHIV委員会が設立されています。その結果、患者さんは自身の治療や処方通りに抗レトロウイルス薬（ARV）を服用する必要性への理解を深め、また医師、看護師、病院職員は、提供しているサービスを少し変えるだけでクリニックへの通院を改善するよう患者さんに促すことができるようになりました。

「ポジティブ・アクション」は、カンボジア、中国、タイとベトナムのコミュニティと連携する目的でamfARのTREATAsiaプロジェクトを支援しています。HIVと共に生きる人々に対してARVの啓発を行い、理解を向上させるために様々なアプローチが取られています。タイでは薬物使用者対象にニュースレターを配布し、カンボジアとベトナムでは女性と子供向けに教育とサポートを提供しています。中国ではクリニックとコミュニティを結びつけていたりしています。参加している中国のレッドリボン治療センターでは、治療の経過追跡ができない患者さんの割合が約30%から1%以下に減少しました。

コミュニティの能力を構築する

HIVの影響を受けているコミュニティは、直面するすべての課題にいち早く対応できるわけではありません。組織を編成し、運動を起こし、スキルと経験を蓄積していくには時間を要します。

「ポジティブ・アクション」は、欧州の団体同士をつなげ連携することを推進するプログラムを支援しています。GSKのパートナーであるAIDS Action Europeは、専門知識を共有し、スキルと組織力を向上させ、共通の方針を推進しています。

2004年「ポジティブ・アクション」は、国際エイズ会議でHIVコミュニティのための新たな交流の場であるグローバル・ビレッジの設立をサポートしました。カナダのトロントとメキシコ・シティーで開催された国際エイズ会議でのグローバル・ビレッジは、HIVの影響を受けているコミュニティにとって有意義で不可欠な場となり、「ポジティブ・アクション」は主要スポンサーとしてその発展に貢献しています。グローバル・ビレッジは、国際エイズ会議の中で現地のコミュニティから非代表者が参加できる唯一のプログラムで、数千人ものビジターがそのベネフィットを受けることを可能としています。

ケース・スタディー

HIVと生きるーケニアのレイチェルの話

34歳のレイチェルは、2人の子供がいて、小さなHIVサポート・グループを運営しながら木や果物、野菜を収穫して収入を得ています。しかし、2005年の状況はそれほど良くはありませんでした。これはレイチェルの話です。

レイチェルの運が尽きたように見えたのは彼女の夫が交通事故で死亡した時でした。その時、レイチェルは2人目の子供を身ごもっていました。ケニアの多くの若い未亡人がそうであるように、夫の家族と自分の家族から拒まれました。何の援助もないまま、レイチェルと2人の小さな子供が残されました。



どこに行くあてもない中、仕事を紹介してくれるだけでなく、内縁の妻として迎え入れてくれる男性と出会いました。しかし幸運が訪れてきたわけではありませんでした。数カ月以内にレイチェルは、妊娠し病気になる、その後HIV陽性だと分かりました。2005年の初めに抗レトロウイルス薬(ARV)を服用し始めましたが、嘔吐の症状があり、病院はとても遠く、お金もかかりました。薬を飲むのを止め、9月に赤ちゃんが亡くなりました。

現地のサポート・グループにARVの説明を行うZingatia Maishaプロジェクトが村で始動したのは2007年初旬です。服薬遵守のカウンセリングを受けたお陰でレイチェルは、2007年の3月にARVの治療を再開し、薬剤を毎日2回服用することにより健康状態が徐々に改善されました。35kgだった体重も6カ月後には43kgに増えました。子供たちのHIV検査の結果は陰性で、「長生きし、孫を見られる年齢まで生きられると信じています。」とレイチェルは語ります。



「Zingatia MaishaプロジェクトがサポートしているHIV/AIDSグループに参加することで、同じ立場にいる他の人達と自由に私の経験を共有することができました。もう肩身の狭い思いをすることはありません。他のHIV/AIDSと共に生きる人々とも小さいサポート・グループを立ち上げて今は順調に進んでいます。私たちが直面している問題について話し合い、Zingatia Maishaプロジェクトが参加しているHIV/AIDSグループと経験を共有し、そのサポートを得ることによって多くを学ぶことができました。」と話します。

レイチェルの経験の詳細は、
uk.amref.org/personal-stories/rachels-storyをご覧ください。

「ポジティブ・アクション」は、

- 過去7年間で世界**63**カ国に渡る**65**のプロジェクトを**54**の組織と連携して支援
- 中国の4つのHIVクリニックで患者さんの追跡率を**70%**から**99%**以上にしよう支援
- インドの農村地域に住む**50万人**とその家族**250万人**を対象に持続可能なHIV予防プロジェクトを設立
- 8,500人**の医療従事者にHIV/AIDSに関する医療研修用の資料を提供
- トロントとメキシコ・シティーで開催された国際エイズ会議のグローバル・ビレッジで**45,000人**のHIV/AIDSコミュニティの代表者と科学界・医学界の代表者が交流できるよう支援
- ケニアの**40**のHIVセンターで、ピア（仲間）へのサポートと服薬遵守の向上を目的に**4,000人**のHIV感染者に研修を行う

Positive Action at Workプログラム

多くの雇用者は、しっかりとしたHIV/AIDS方針を採用していますが、偏見と恐怖心がそれらの実行の妨げになっています。

「ポジティブ・アクション」は、National AIDS Trustと協力して、雇用者がHIV/AIDSを理解して適正な雇用方針や慣行を推進するための資料を発行しており、ピア（仲間）・エドゥケーター主導の研修プログラムの開発を行なっています。

「Positive Action at Work」のプログラムは、ケニア、インド、メキシコのGSK社員を対象にパイロットスタディーが実施され、これらの地域の他の雇用者も資料を採用しています。研修マニュアル、プレゼンテーション資料、リーフレットとポスターは、著作権フリーで提供しています。「ポジティブ・アクション」のウェブサイトからダウンロードできます。



「ポジティブ・アクション」のパートナー2008

- AIDS Action Europe
- AIDS Mobility
- American Foundation for AIDS Research—amfAR
- African Medical and Research Foundation—AMREF
- CCPO
- Colectivo Sol
- Crusaid, UK
- Elizabeth Glaser Pediatric AIDS Foundation—EGPAF
- Freedom From Hunger
- Global Network of People Living with HIV and AIDS—GNP+
- International AIDS Society
- International Council of AIDS Service Organizations—ICASO
- International HIV/AIDS Alliance
- Movement of Men Against AIDS in Kenya—MMAAK
- NAM
- National AIDS Trust—NAT
- Network for Empowerment of People living with HIV/AIDS in Kenya—NEPHAK
- PLUS V E
- Terrence Higgins Trust—THT

グラクソ・スミスクラインは、人々が心身ともに健康でより充実して長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としており、私たちが開発・販売している医薬品やワクチンを通してだけでなく、幅広い社会貢献プログラムを通じてこの企業使命を追及しています。

ウェブサイト

グラクソ・スミスクラインの社会貢献活動および「ポジティブ・アクション」プログラムの詳細は、www.gsk.com/communityまたはwww.positiveaction.comをご覧ください。

連絡先

Director, HIV and AIDS Programmes
Global Community Partnerships
GlaxoSmithKline
980 Great West Road
Brentford, Middlesex
TW8 9GS
UK
E-mail: community.partnerships@gsk.com

発行・問い合わせ

グラクソ・スミスクライン株式会社 広報部 Tel: 03-5786-5030 <http://glaxosmithkline.co.jp>
2008年11月発行

GLAXOSMITHKLINE
**POSITIVE
ACTION**



CommunityMark
developed by Business in the Community